

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和2年度採択）

中間評価結果（公表用／ソフト分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2020-1	マルチスケールな拠点空間計画のための新たな行動モデル研究	東京大学 教授 羽藤 英二	B

<研究の概要>

自動走行交通ネットワークに対応した交通拠点整備計画において、従前の HWH のような単純な交通行動のパターンを前提にした手法論が、情報化、近居・遠居の浸透、経済の停滞を背景に転換を迫られている。本研究では、長距離バスや自動走行-シェアリング技術の進展に伴う、1) 交通拠点施設内と接続空間における 3 次元行動モデル、2)1km 四方の交通拠点近傍の人々の行動パターンの解析と予測、3)2 次交通を含む都市圏域における人々の行動パターンの解析と高速計算手法の構築、4) 日本全体のマルチスケールな交通需要予測の解析方法を開発することを目的に実施する。

<中間評価結果>

1. 個々の分析は非常に興味深く、学術的価値も高い。マルチスケールの統合については、次年度はもっと明示的に結果を示すようにして頂きたい。
 2. 全国展開のためのガイドライン作成にあたっては、全国の実務者が利用可能な、わかりやすいガイドラインとなることを期待する。
- ・(コメント) 研究計画の修正というわけではないが、そもそも、各モデル間の関連性とそれを一体的に分析することがどんなアウトプットが期待されるのかについての全体フレームが明示されないまま研究が進んでいる点は問題であるように思う。

<今後の研究計画・方法への指摘事項>

- ・ 令和4年度に予定している「全体総合評価」において、マルチスケールを統合的に扱うことの意味を明確にして頂きたい。
- ・ 交通・土地利用モデルの全体の中での位置づけや活用イメージが不明確であり、モデルの構築及び組み込みに向けて明確化が必要である。
- ・ 昨年度の「研究計画の全体見通しと研究成果の明確化」という指摘に対して、適切な対応がなされた内容に報告書になっていないと考えらる。また、報告書の冒頭で示した本年度行う予定の取り組みに対して具体的にどのような検討を行ったのかが報告書の後半では示されておらず、研究進捗が順調かどうかを判断できない。
- ・ (コメント) 人々のツイートを人流の予測に当てはめる点が斬新であり、リアルタイムの心理情報が使用できれば、交通流予測の精度も上がるものと思われる。ただし、ツイートを頻繁に行う世代とそうではない世代があるはずで、今後、他地域に展開する際、適用可能な地域の絞り込みには世代を反映させる必要もあるのではないかと。

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第45回新道路技術会議において審議したものである。